

# I. 県土整備の概要

## 1. 和歌山県の地勢・気象

### ●面積

本県は本州紀伊半島の南西部にあって、北は大阪府、東は奈良県と三重県、南は熊野灘に接し、西は紀伊水道を挟んで徳島県と向かい合っています。東西約94km、南北約106kmに及び、総面積は4,724.65km<sup>2</sup>で、国土の1.25%を占めています。本県は古くから「紀(木)の国」と云われ、面積の大部分は紀伊山系を中心とする1,000m前後の山岳地帯で、高野山、那智山など古代から親しまれた山々が多くあります。

### ●河川

河川の多くが、これらの諸山脈に源を発し、流域を潤して紀州灘や熊野灘に注いでいます。

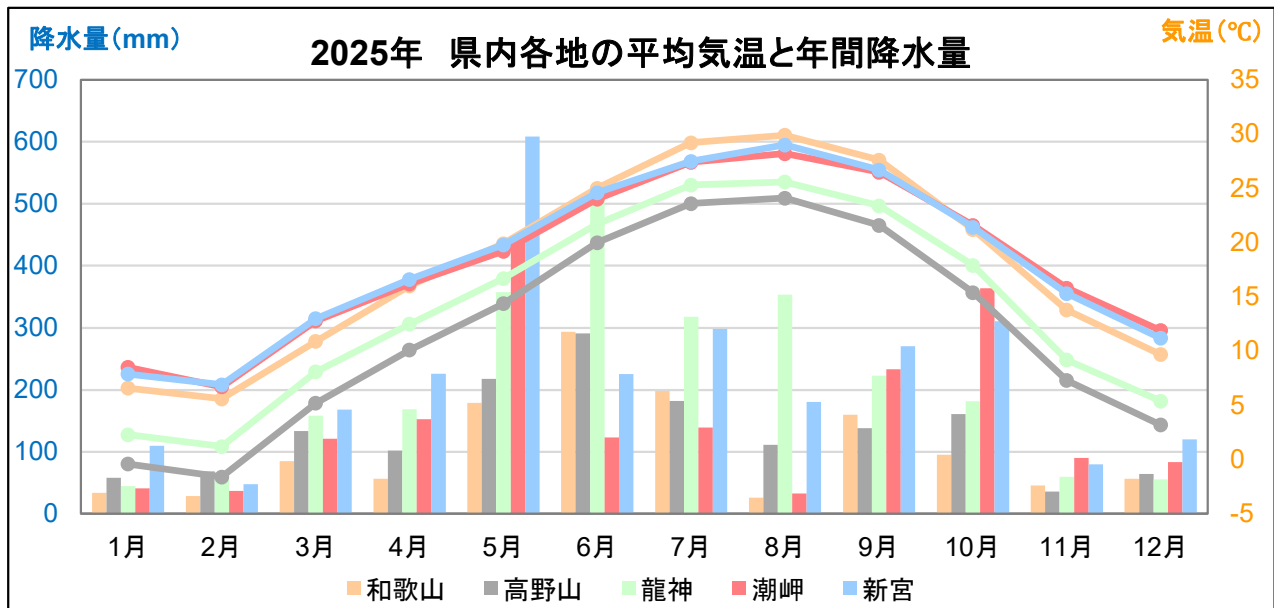
### ●海岸線

海岸線は、総延長約650kmに及ぶリアス式海岸で、とりわけ潮岬を中心とした県南部の海岸は、黒潮に洗われ景勝に富んでいます。

### ●気候

和歌山市など県北部は瀬戸内海式気候に属し、年間を通じて天気や湿度が安定しており、降水量も少なくなっております。

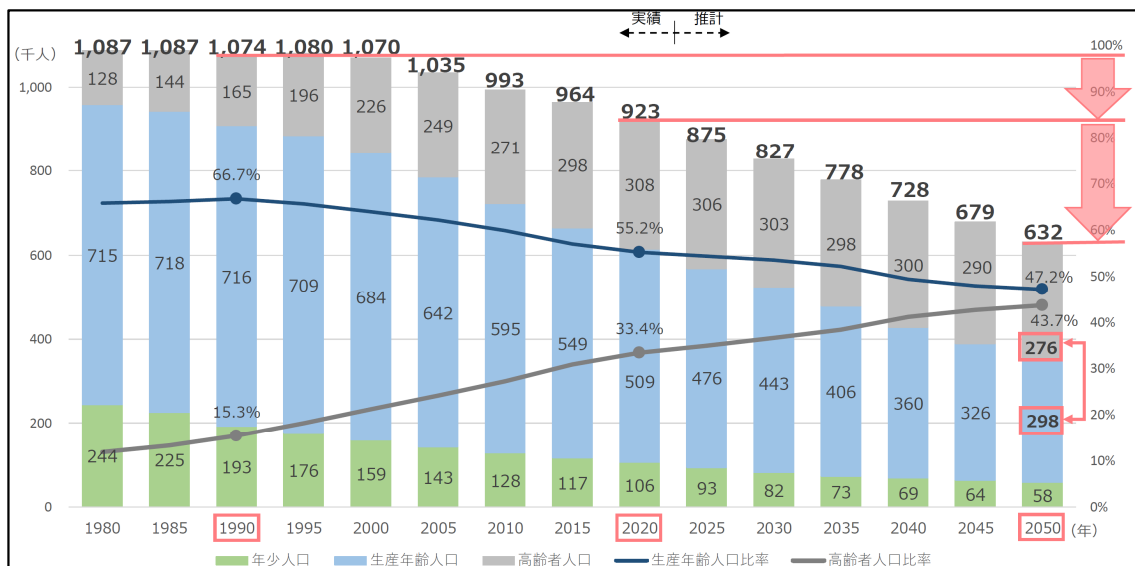
一方、県南部は太平洋式気候に属し、黒潮の影響を受け温暖で台風の影響を受けやすく、極めて降水量の多い地域もあります。また、日照時間は長く、夏は比較的涼しく冬は暖かい傾向がみられます。



## 2. 和歌山県の人口の見通し

本県における今後の人口減少のペースは、これまで経験したことのないスピードで進行し、2050年にはピーク時の約6割(現在の約7割)まで減少することが予測されています。

特に、生産年齢人口の減少が著しく、2050年には高齢者人口とほぼ同数まで縮小する見込みとなっており、建設業をはじめとする社会基盤整備の担い手の減少が予測されます。



# 3. 県土整備の現状等

## 道路

本県には、一般国道11路線、県道190路線、市町村道31,629路線の道路があり、改良率は、全国平均より低い状況です。

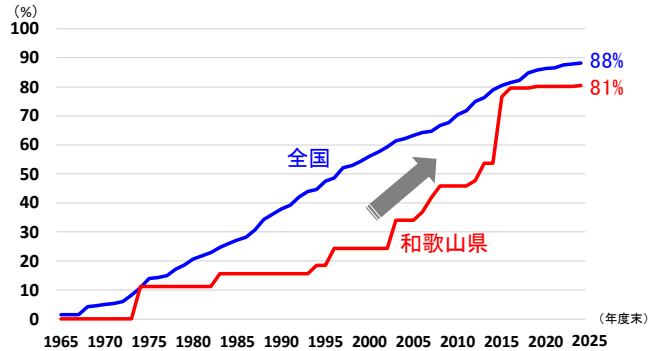
高速道路も、2015年紀の国わかやま国体の開催に合わせ整備率が大きく進展したものの、全国と比較すると未だ低い状況です。

和歌山県の道路の状況

		路線数	実延長(km)	改良率(%)
一般国道	国土交通省管理	3	344	100.0
	県管理	8	715	69.7
	計	11	1,059	79.5
県道	主要地方道	47	933	58.5
	一般県道	143	970	37.8
	計	190	1,903	48.0
一般国道+県道		201	2,962	59.3
市町村道		31,629	10,861	46.0
県管理道路(県管理国道+県道)		198	2,618	53.9
全国(一般国道+都道府県道)		13,794	186,089	78.0

出典: 道路統計年報2024(2023.3.31時点)

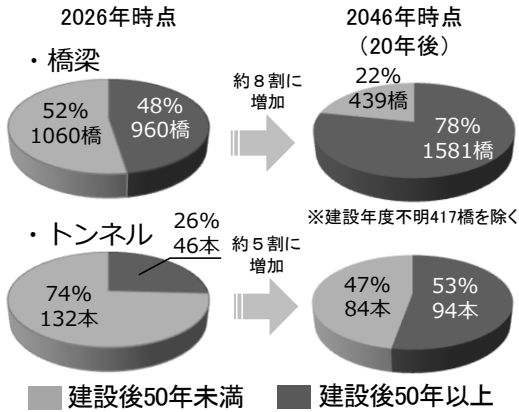
高速道路整備率の推移



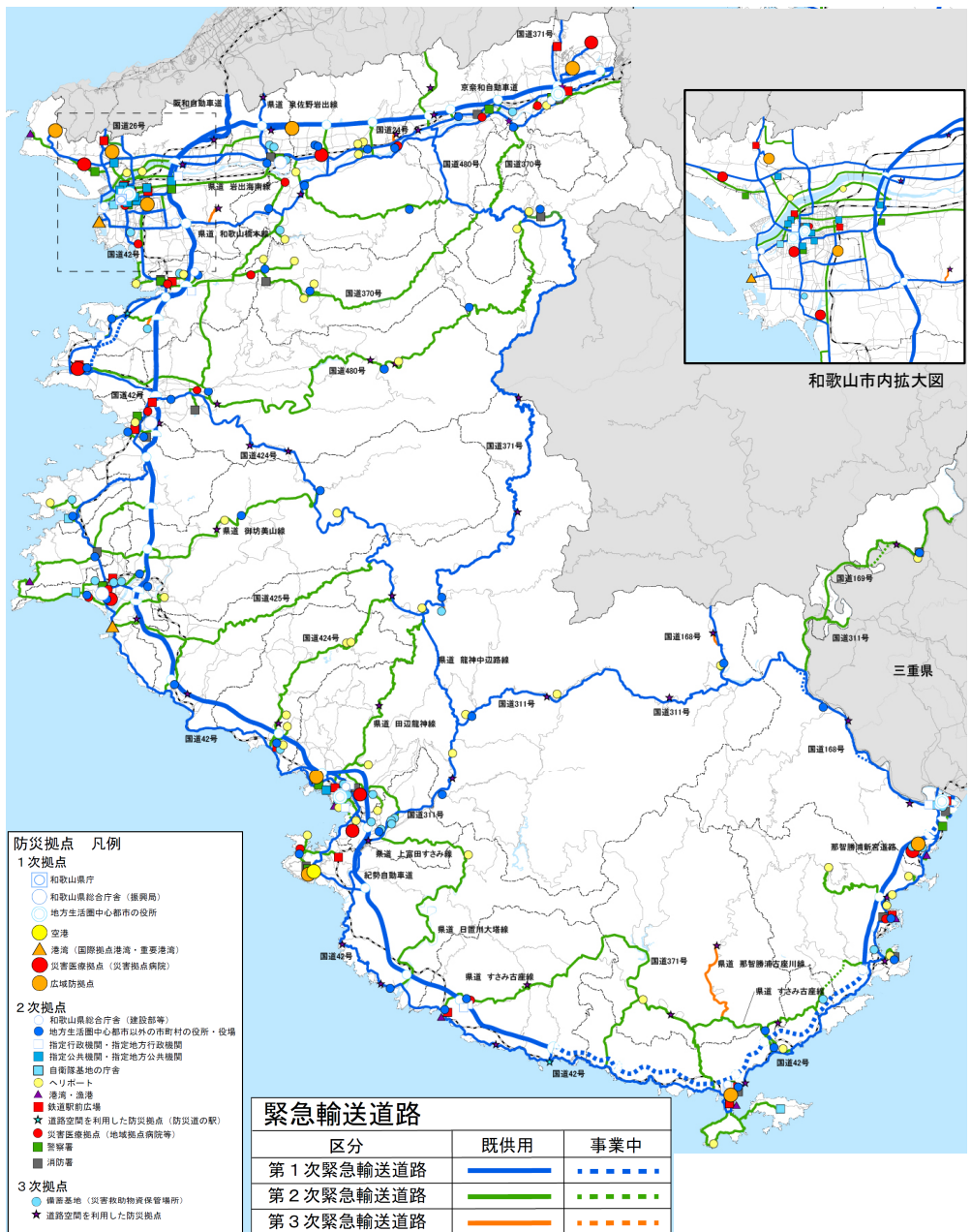
出典: 全国高速道路建設協議会資料(2026.3.5時点)

今後、建設後50年を経過する橋梁やトンネルなど重要な道路施設が急速に増加することから、持続可能な維持管理を実現する予防保全型インフラメンテナンスへの本格転換に向け、老朽化対策を着実に進めていきます。

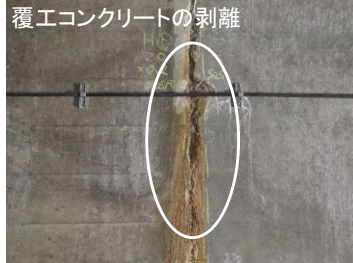
【建設後50年以上経過する施設の割合】



和歌山県緊急輸送道路ネットワーク図 (2026.3時点)



新和歌浦線 観光橋 1925年供用(建設後100年)



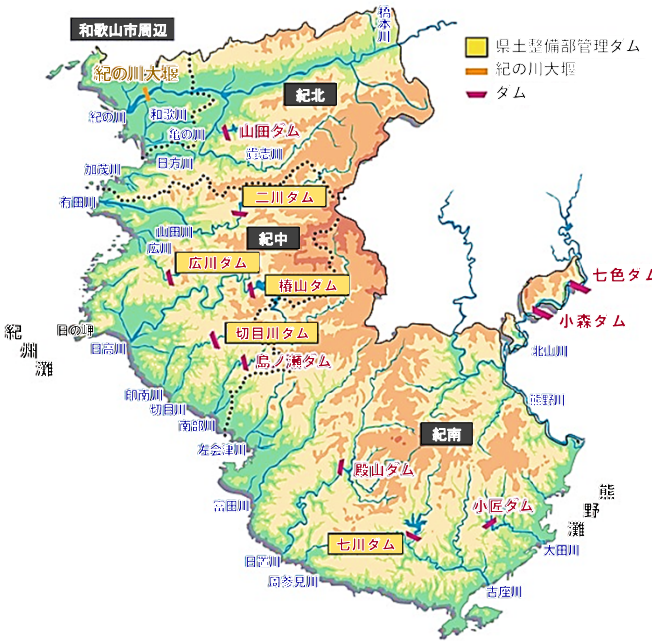
すさみ古座線 獅子目トンネル 1983年供用(建設後42年)

# 河川

本県には、2つの一級水系があります。大台ヶ原(奈良県吉野郡川上村)を水源として県北部を西流し、紀伊水道に注ぐ紀の川水系と、日本最多雨地帯の大峰山脈に源を発して県東部を南流し、熊野灘に注ぐ新宮川水系です。両水系には、134の一級河川と44の準用河川があります。一方、二級水系は85水系あり、317の二級河川と47の準用河川があります。さらに、単独水系には9の準用河川があり、準用河川は各水系合わせて100河川あります。一級河川は国と県が分担して管理しており、二級河川は県が、準用河川は市町村がそれぞれ管理しています。

年間降水量は、北部及び紀伊水道、紀州灘沿岸部では1,500~2,000mm程度、南部は2,000mm以上で山間部の南東斜面では3,500mmを超え、全国でも降水量の極めて多い地域となっています。

県の主要河川



年間降水量分布図



出展: 気象庁データ(1991年~2020年)

和歌山県の指定河川

種別	水系数	河川数	延長(km)	
一級河川	国管理	2	4	65.5
	県管理	2	133	543.7
	小計	2※ <sup>1</sup>	134※ <sup>2</sup>	609.2
二級河川	85	317	1,422.0	
合計	87	451	2,031.2	
準用河川	27	100	99.9	

※1: 国管理河川と県管理河川の水系が重複しているため  
 ※2: 国管理4河川のうち3河川が県管理河川と重複しているため  
 (重複河川: 貴志川、熊野川、市田川)

ダム諸元

ダム名	二川ダム	広川ダム	椿山ダム	切目川ダム	七川ダム
水系名	有田川	広川	日高川	切目川	古座川
河川名	有田川	広川	日高川	切目川	古座川
位置	有田川町二川	広川町下津木	日高川町初湯川	印南町高串	古座川町佐田
形式	重力式コンクリート	重力式コンクリート	重力式コンクリート	重力式コンクリート	重力式コンクリート
堤高	67.4	53.5	56.5	44.5	58.5
堤頂長	223	166	236	127	154
堤体積	209,250	110,000	265,000	67,400	96,240
集水面積	228.8	12.6	396.5	21.9	102.0
湛水面積	0.86	0.20	2.68	0.28	1.79
総貯水容量	30,100	3,500	49,000	3,960	30,800
有効貯水容量	19,200	3,250	39,500	3,410	25,400
治水容量	14,400	2,550	35,500	2,400	20,000
不特定容量	—	700	4,000	985	—
計画高水流量	3,000	290	4,500	320	1,380
洪水調節量	900	250	1,640	190	1,060
河口からの距離	38	12	55	23	27
管理開始年度	1966	1975	1989	2015	1957
目的	F・P	F・N	F・N・P	F・N・W	F・P

F: 洪水調節 N: 流水の正常な機能の維持 W: 上水道 P: 発電

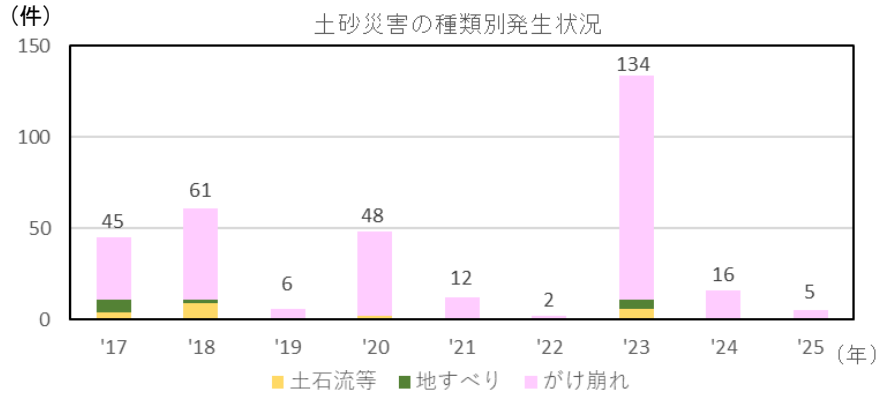


**←日本一短い川 ぶつぶつ川(2008年10月21日 二級河川指定)**  
 那智勝浦町の粉白地区を流れるぶつぶつ川は、飲めるほど良質な清水が沸々と湧き出る泉が、さらさらと流れる小川で、その長さはわずか13.5mしかありません。川底からぶつぶつと湧き出てくる様子からぶつぶつ川と呼ばれています。

## 砂防

本県は県土の約80%が急峻で脆弱な山地におおわれている上に、全国有数の多雨地帯に位置することから、土石流、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害が毎年のように発生しています。

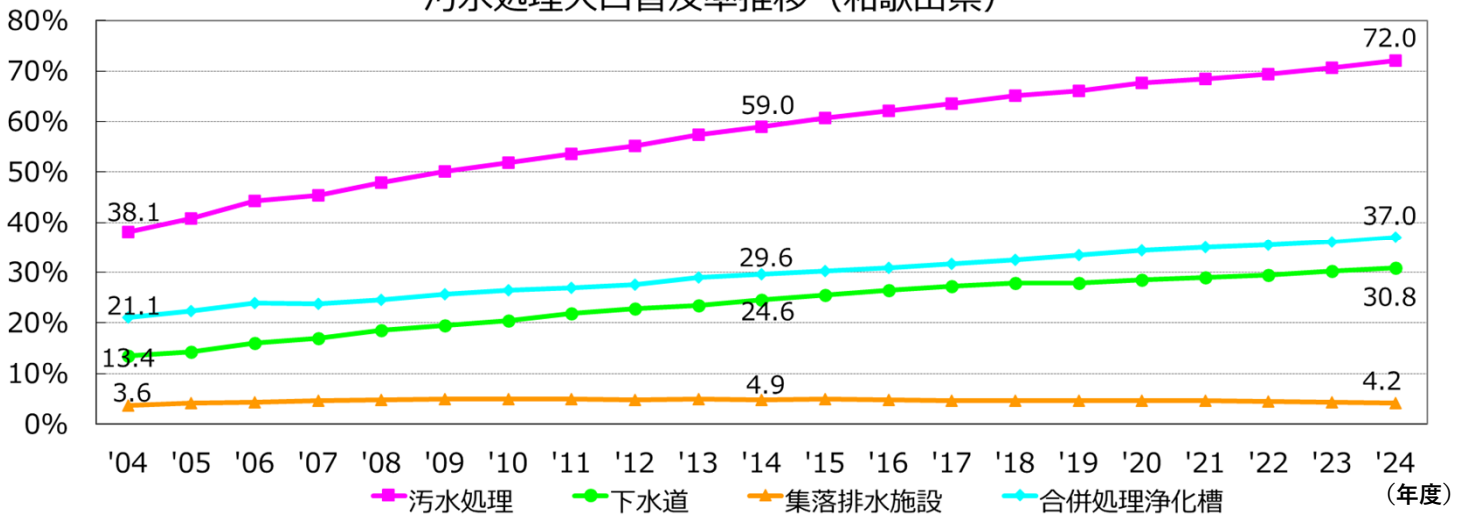
このため、県では犠牲者ゼロを目指して、ソフト対策とハード対策が一体となった土砂災害対策を進めています。



## 汚水処理

下水道、集落排水施設(農業集落排水、林業集落排水、漁業集落排水)及び合併処理浄化槽のそれぞれの特長を活かした効率的、効果的な汚水処理施設の整備を推進しています。

汚水処理人口普及率推移(和歌山県)



## 都市公園

都市公園は、人々のレクリエーションの空間となるほか、都市の防災性の向上など様々な機能を持ち、快適で安全な生活を実現する上で必要不可欠なものです。都市の緑とオープンスペースの保全、創出からも、総合的かつ計画的に整備する必要があります。

県土整備部では7箇所の都市公園と3箇所の公園施設を維持、管理しています。

### ●都市公園の機能

- ・都市環境維持、改善の機能(気温の緩和、大気汚染の浄化)
- ・防災機能(避難場所、延焼防止等)
- ・景観形成機能(都市景観の形成等)
- ・健康、レクリエーション機能(運動、休養、環境学習等の場)

県土整備部管理の公園施設

公園施設名	所在地	供用面積	供用開始
秋葉山公園県民水泳場	和歌山市	2.65ha	2013.9.1
県営相撲競技場	和歌山市	0.33ha	2013.4.1
県立橋本体育館	橋本市	1.72ha	1999.9.13

県土整備部管理の都市公園

公園名	所在地	供用面積	公園種別	供用開始	主要公園施設
紀三井寺公園	和歌山市	17.66ha	運動公園	1964.4.1	陸上競技場、野球場、球技場、テニス場、登はん場
和歌公園	和歌山市	43.66ha	風致公園	1895.12.28	健康館、万葉館、野外ステージ、万葉の小路、観海閣
河西緩衝緑地河西公園	和歌山市	31.49ha	緩衝緑地	1974.7.1	プール、多目的グラウンド、テニス場
河西緩衝緑地湊緑地	和歌山市	2.95ha	緩衝緑地	1987.6.1	テニス場、ソフトボール場
河西緩衝緑地松江緑地	和歌山市	6.20ha	緩衝緑地	1987.6.1	テニス場
河西緩衝緑地西松江緑地	和歌山市	6.17ha	緩衝緑地	1993.4.1	体育館、野球場、サッカー場
河西緩衝緑地東松江緑地	和歌山市	5.62ha	緩衝緑地	2005.4.1	中央広場、みんなの原っぱ

## 港湾・漁港

海岸線約650kmに面している本県には、国際拠点港湾の和歌山下津港、重要港湾の日高港のほか、新宮港など13の地方港湾があり、人流面、物流面において海の玄関口として重要な役割を果たしています。地方港湾の中で由良港と勝浦港については、避難港にも指定されています。

本県ではこれらの港湾を活用し、クルーズ客船の誘致を行っています。県内におけるクルーズ客船の寄港回数は、新型コロナウイルス感染症の流行、拡大を受け、2020年にはクルーズ客船の運航休止が相次いだものの、官民連携の継続的な誘致活動により、2023年には20回を記録し、2025年には過去最多となる39回となりました。

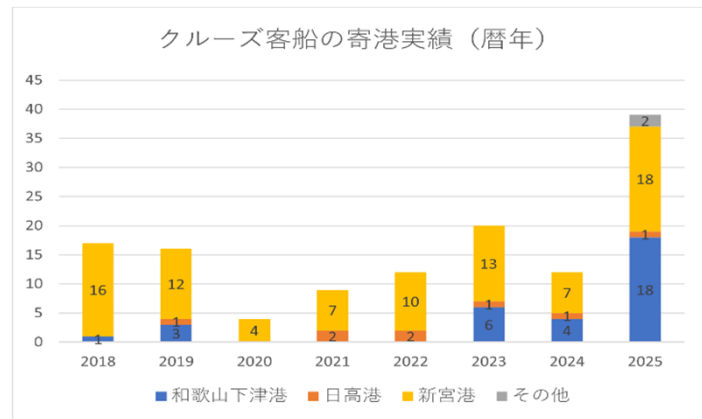
クルーズ客船の寄港は港を中心とした地域の賑わいを創出し、また地域経済を刺激する効果が大きいため、市町村及び関係団体と協力し、安全面を重視した受入体制の構築を重視しつつ、従来の制度を拡充した「クルーズ客船誘致助成制度」を活用し、引き続き誘致に取り組んでいます。

港湾の種類と数

	全国	和歌山県	備考
港湾数	932	15	
国際戦略港湾	5	0	
国際拠点港湾	18	1	和歌山下津港
重要港湾	102	1	日高港
地方港湾	807	13	文里港、湯浅広港他
(うち特定地域振興重要港湾)	(13)	(1)	新宮港
(うち避難港)	(35)	(2)	由良港、勝浦港

(2026年4月現在)

クルーズ客船の寄港実績



また、94の漁港(内、県管理漁港7漁港)があり、流通拠点漁港が5漁港、生産拠点漁港が15漁港があります。その中で、阿尾漁港と有田漁港については避難漁港として位置付けされています。

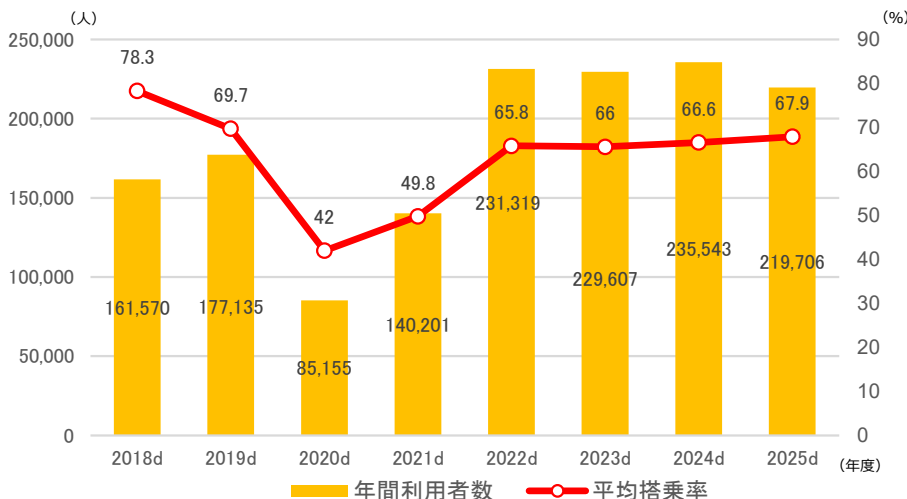
## 空港

熊野白浜リゾート空港(正式名称:南紀白浜空港)は、和歌山県の空の玄関口として1968年に開港して以来、紀南地方を中心に産業、経済、文化の振興等、アクセス拠点として大きな役割を果たしています。

新たに完成した国際線ターミナルビルを活用し、2023年度にはベトナムや韓国からの国際チャーター便の受入れを行うとともに、2024年1月には「熊野白浜リゾート空港」と愛称を設定することで国内外からの多くの利用促進を図っています。

2022年度以降、年間20万人を超える利用者数で推移しております。

年度別 搭乗者数・平均搭乗率の推移(2018年度～)



※2025年度は4～2月までの実績

熊野白浜リゾート空港の概要

告示面積	741,000㎡
標高	89.4m
運用時間	8時30分から20時(11時間30分)
滑走路	長さ2,000m×幅45m (2000年9月延長供用開始)
エプロン	ジェット機用 3バース 小型機用 5バース
就航路線	熊野白浜リゾート空港⇄羽田空港 (1日3往復) 日本航空 B737-800(165席)
駐車場	220台(有料) 300台(無料)
アクセス	JR白浜駅からバスで約20分 タクシーで約10分

## 4. 令和8年度当初予算における県土整備部の重点施策

### 国際化を踏まえた産業の振興

#### 【熊野白浜リゾート空港利用促進】

羽田線4往復8便化に向け、利用促進施策の実施や、空港周辺の交通アクセスを強化するとともに、国際チャーター便の誘致に向けた航空会社への営業活動等を実施

### 地域内外の交流の活性化

#### 【道路ネットワーク強化】

国内外の活発な人流・物流を地域に呼び込むため、また、半島防災の観点から南海トラフ地震等の大規模災害に備えるため、紀伊半島一周高速道路など道路ネットワークを強化

### 防災・減災、県土強靱化

#### 【流域治水対策】

気候変動による水災害の激甚化、頻発化に対応するため、流域全体のあらゆる関係者が協働してハード、ソフト事業に一体的に取り組む「流域治水」を推進

#### 【津波から“逃げ切る！”ための堤防等整備】

津波避難困難地域における居住者の避難時間を確保するとともに、津波避難困難地域外の経済被害を抑え、早期の復旧・復興につなげるための対策として、港湾、漁港の防波堤等の嵩上げや、耐震化等の整備を実施

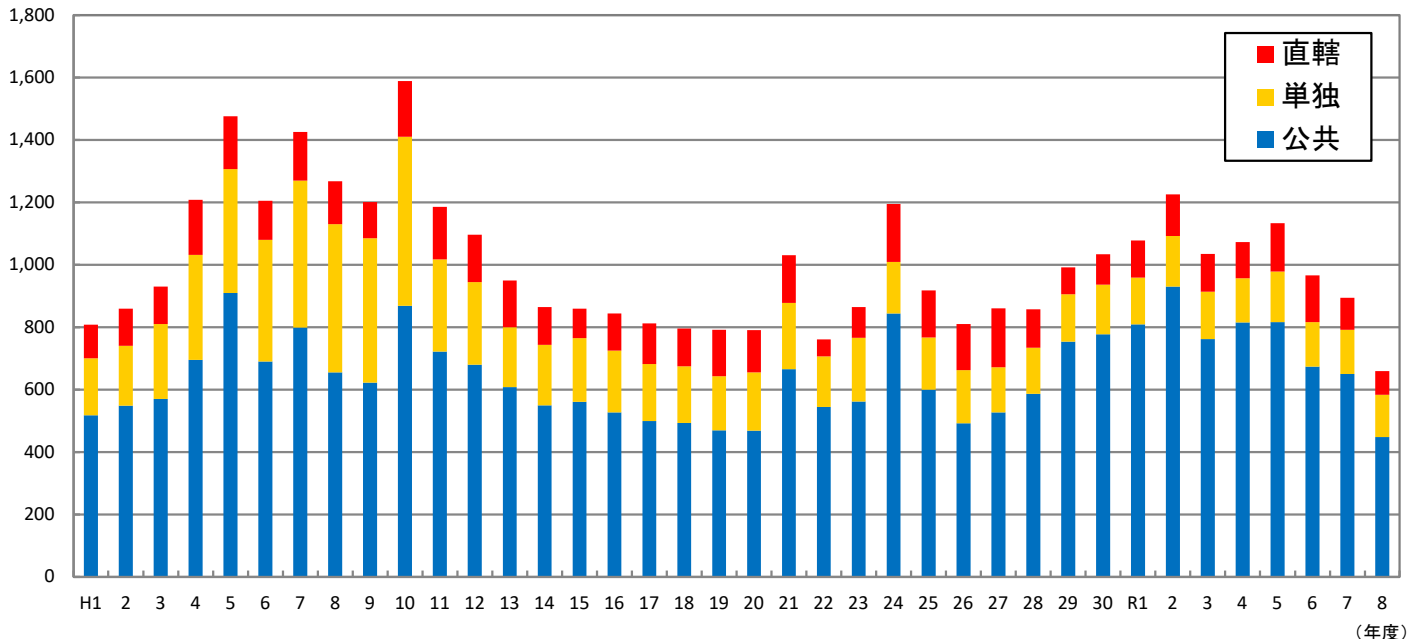
#### 【インフラ老朽化対策】

予防保全型インフラメンテナンスへの本格転換に向け、橋梁やトンネル、河川・港湾施設など、深刻化するインフラの老朽化対策を着実に実施

## 5. 和歌山県 県土整備部所管 事業予算の推移

### 【県土整備部関係の投資的事業費及び維持修繕事業費の推移】

(億円)



※R8については当初予算額。R7以前については補正予算含む。

※災害除く。市町村への補助金含む。

## 6. 和歌山県総合計画

今後、人口減少・超少子高齢化の加速、デジタル技術の進展に加え、脱炭素・循環型社会への構造転換が求められるなど、社会が急速に変化する中で、より豊かで持続可能な社会・経済を創生するため、2040年に実現したい和歌山の将来像を

「人口減少や気候変動に適応した、持続可能で心豊かな和歌山」

「個人が尊重され、あらゆる分野で個性輝く和歌山」

と表現しています。

〈政策の6つの柱〉



### 【県土整備部の主な取組】

#### 海外の活力を取り込む

・熊野白浜リゾート空港の機能強化、船舶大型化に向けた港湾施設の改良

#### 産業の創造力と生産性を高める

・産業用地開発に向けたインフラ整備、新たな観光ルートの形成に資する道路整備

#### つながりを広げて、暮らしを守る

・広域交通ネットワーク(道路,空港,港湾)の構築、効率的・効果的なインフラマネジメント

#### 安全な社会基盤を築き、さまざまな脅威から命を守る

・道路ネットワーク強化、流域治水の推進、港湾・漁港等の耐震化、インフラ老朽化対策